



大学との連携によるアンテナショップの様子

取組

大学との連携



イベント



連携・協働



情報発信



逸品・名品

❖取組を開始したきっかけ

藤が丘は名東区で最も人が集うまちである。地下鉄東山線やリニモ、東名高速名古屋インター等、名古屋有数の交通の便の良さを誇っており、また、周辺に複数存在する大学へのアクセス拠点でもあるため、若者も多く行き交う場所だ。

このような環境の中で、現在、藤が丘中央商店街は大学、高校、他地域の公共団体等と連携し、様々な取組を行っている。この多様な連携のきっかけとなったのは、後述する南三重のアンテナショップである。アンテナショップとは、企業や自治体等が自社製品の紹介や消費者の反応を見ることを目的として開設する店舗のことである。

三重県南部に所在する「東紀州地域振興公社（旧：東紀州観光まちづくり公社）」が、南三重の特産品を販売するためのアンテナショップの設置場所を調査し、それに当商店街が選ばれたのが始ま

りだ。立地の良さが評価され、平成21年11月から南三重のアンテナショップが設置されることとなった。この出来事はマスコミにも取り上げられ、その後、近隣の愛知学院大学とアンテナショップを介した連携が始まった。

そして、当商店街と大学等との連携は徐々に広がっていき、今では名古屋学芸大学、東邦高校とも連携を行っている。主な連携事業はアンテナショップに関するものだが、他にも幾つかの事業を協働で実施している。



取組の概要 >>>>

東紀州地域振興公社が運営するアンテナショップ「南三重ふれあい広場」(営業時間：10時～18時)では、南三重の特産品の販売や観光情報の発信がされている。毎月第1週の金・土には、アンテナショップ前の広場で「青空市」と呼ばれる市場が開かれており、ここでは、南三重の特産品が生産者によって直接販売されている。

青空市は、商店街、地域振興公社、大学との協働により実施されており、愛知学院大学の学生は、南三重の食材の調査、仕入れ、販売を担当していた。そして近年では、学生は青空市で売り出される新商品の開発にも携わっている。

学生が開発した商品には、「新姫いろいろ」(名古屋名物いろいろに南三重の特産物である柑橘類の新姫を入れたもの)、「和菓子姫さんま」(求肥の代わりに新姫いろいろを用いた鮎菓子のようなもの)、「くるくるなごみかん」(バタークリームと南三重の夏みかんジャムを米粉の生地で包んだロールケーキ)等がある。商品開発に関しては、愛知学院大学が商品の開発、販売企画を行い、名古屋学芸大学が商品のデザインを担当している。

加えて、青空市には愛知学院大学の「藤が丘DJ」の存在もある。藤が丘DJの活動で学生は、飲食店や雑貨店等に赴き店舗の魅力やその他諸々を取材し、各店



当商店街は学生との連携事業において学生から提案された事業を極力採用し、実現させることとしており、その実施を学生自身に任せるように努めている。若い学生ならではのアイデアを最大限に活用するためであり、商店街は、アドバイスや資金の面で側面より支援を行っている。特に物販事業は赤字になり易いため、失敗した事業の損失は別の事業の利益で賄うように、学生に促している。

また、飲食販売に関しては、例えば、学生から和菓子の作成・販売を提案されたときは、作成の段階で商店街の和菓子屋さんが協力して試食会を開いて、販売に耐えられるか初期段階から議論して助言を受けることで、失敗を防いでいる。

舗のPRを考案する。そして出来上がった、「藤が丘中央商店街のPR放送」を、青空市当日に藤が丘駅周辺のスピーカーから流している。

また、アンテナショップ以外の連携事業として、東邦高校による当商店街のマップ作成等がある。



▲学生が開発した商品の「くるくるなごみかん」

❖取組の効果・課題等

青空市では、南三重の特産品や学生が開発した新商品が限定販売され、そのほとんどの商品が完売と言う成果を上げた。また、藤が丘DJのPR放送では、店舗のセール情報が宣伝され、普段チラシを見ない人への購買効果が認められた。このように、学生が商店街事業に携わってから、若者を中心に当商店街に興味を持つ人は増えている。

また、現在、愛知東邦大学、東邦高校と連携して、名東区の商店街のゆるキャラの製作を企画中である。流行りのゆるキャラを活用し、更に商店街を活気づけようと考えているところだ。

ほかにもこんな取組をしています「さくらまつり」

平成25年で34回目を迎えた「さくらまつり」は、毎年4月の第1週の土日に開催されており、毎年5万人以上の来客者が訪れる一大イベントだ。藤が丘の歩道には街路樹として数百本の桜が植えられており、春になると街中が桜で彩られる。当イベントには、ステージショーやフリーマーケットのほか、学区内有志やボーイスカウト、学童保育所等が出店しており、地域交流の場としての役割を担っている。

また、東邦高校との協働により作成した商店街マップを、イベント当日には高校生が商店街のPRをしながら配布した。

商店街DATA

藤が丘中央商店街振興組合

所在地 ● 名古屋市名東区藤が丘162番地4-104 アクセス ● 地下鉄藤が丘駅 周辺 設立年月日 ● 昭和59年1月20日
 組合員数 ● 80名 代表者 ● 加藤 常文 TEL ● (052)773-7711 メールアドレス ● mail@fujigaoka.or.jp